

# 天浜線39駅の青春 撮影

## 浜松学芸中高校生

### 切ない恋、気の合う仲間：

#### ポスターやカレンダー制作

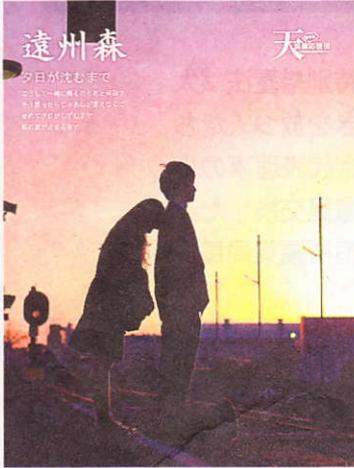
県西部を走る天竜浜名湖鉄道の活性化のため「天浜線勝手に応援プロジェクト」に取り組み浜松学芸中高(浜松市中区)の生徒が全39駅を舞台にポスターやカレンダーを制作した。「思わず胸がキュンとなる青春の一場面」を切り取り、同年代の若者が同じ風景を撮影しに訪れたくなる仕掛けにした。4月からは部活動として応援プロジェクトを継続し、天浜線の動画制作や中心市街地の活性化企画も展開する。(浜松総局・青島英治)

企画は、同校が毎年夏季休業中に行う「自主学習」で初めて実施した「地域調査」から生まれ、中学生24人が「運行」「おにぎり」「ポスター」の3テーマで取り組んだ。地域調査は、多くの生徒が県外進学を希望する同校で在学中に地元愛を育み、将来、浜松

に戻りたくなる魅力を生徒の胸に刻みみたいとの教員側の狙いもある。ポスターは昨夏から半年間をかけ、39駅を訪ねて仕上げた力作。生徒が各駅の特徴を生かした場面を考え、雑誌の編集経験がある大木島詳弘教諭(42)が撮影し、一部を卓上カレンダーに採用した。

11月の遠州森駅では、夕日を背にした男女の姿と「こうして一緒に帰るのもあと何回？」との文を添えて卒業を控えた切ない心情を表現した。「気の合う仲間」と題したトロッコではしゃぐ男女を捉えた9月の天竜二俣駅など「大人も甘酸っぱい思い出がよみがえる」(大木島教諭)出来に仕上がった。

中心メンバーの2年神谷菜々花さんは「実は浜松をよく知らなかった。駅を訪れ、昔ながらの駅舎の奥深さを感じた。都会が全て良いわげじゃない」と話した。カレンダー(500円)は天竜浜名湖鉄道本社(天竜区)や奥浜名湖田園空間博物館(北区)で販売。26日までポスターの展示会を遠鉄百貨店で開いている。4月24〜28日は市役所本庁舎でも開く。



思わず切なさを感じる遠州森駅のポスター



遠くからみつめる男子生徒の恋心を表現した浜名湖佐久米駅のポスター



天浜線を舞台にポスターやカレンダーを制作した生徒ら(浜松市役所)